

2018年度（2019年3月期） 通期 決算説明会

2019年 4月 26日
セイコーエプソン株式会社



■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

本説明資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づく将来の予測であり、潜在的なリスクや不確定要素を含んだものです。そのため、実際の業績はさまざまな要素により、記載された見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与える要素としては、日本および海外の経済情勢、市場におけるエプソンの新製品・新サービスの開発・提供とそれらに対する需要の動向、価格競争を含む他社との競合、テクノロジーの変化、為替の変動などが含まれます。

なお、業績等に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。

■ 事業利益について

事業利益は、売上収益から売上原価、販売費及び一般管理費を控除して算出しております。

連結包括利益計算書上に定義されていない指標であるものの、日本基準の営業利益とほぼ同じ概念であることから、連結財務諸表の利用者がエプソンの業績を評価する上でも有用な情報であると判断し、追加的に開示しております。

■ 本説明資料における表示方法

数値：表示単位未満を切り捨て 比率：円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入

年号：断りが無い限り、会計年度を示す

- 2018年度 通期決算
- 2019年度 通期業績予想
- 株主還元

- 2018年度 第4四半期決算詳細
- 主要経営指標

2018年度 通期決算 | ハイライト



	2017年度		2018年度		増減額		
	(億円)	実績 %	1/31予想	%	実績 %	前期比	1/31予想比
売上収益	11,021		10,700		10,896	-124 -1.1%	+196 +1.8%
事業利益	747	6.8%	650	6.1%	704	-42 -5.7%	+54 +8.5%
営業利益	650	5.9%	620	5.8%	713	+63 +9.8%	+93 +15.1%
税引前利益	626	5.7%	610	5.7%	720	+93 +15.0%	+110 +18.1%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	418	3.8%	500	4.7%	537	+118 +28.4%	+37 +7.4%
EPS*1 (円)	118.78		141.95		152.49		
為替レート (円、指数)	USD	¥110.85	¥110.00		¥110.86		
	EUR	¥129.66	¥127.00		¥128.40		
	その他通貨*2	100	94		95		

	前期に対する 為替影響額 (億円)	USD	EUR	その他 通貨合計	合計
売上収益		+0	-22	-135	-157
事業利益		+1	-14	-73	-86

*1 EPS：基本的1株当たり当期利益
*2 その他通貨の各レートを為替ボリュームに応じて加重平均した値について、前期を100とした指数

- 2018年度の通期実績は、ご覧の通りです。
- 売上収益は、前期比 124億円 減収の 1兆 896億円、事業利益は、42億円 減益の 704億円、当期利益は、118億円 増益の 537億円 となりました。
- 2018年度通期の為替変動による影響額は、売上収益で 157億円 のマイナス、事業利益で 86億円 のマイナスとなりました。

◆売上収益

- 戦略商品は販売拡大も、為替のマイナス影響に加え、一部新興国での通貨下落や経済停滞、および貿易摩擦などの影響を受け、成長に向けた取り組みは十分な成果につながらず

◆事業利益

- プロダクトミックス改善により売上総利益が増加
- 将来成長に向けた費用投下を進める
- プリントヘッド部品に係る在庫評価減の計上方法変更による一過性のプラス影響(54億円)
- 為替のマイナス影響

◆その他営業収益費用、税金費用

- 前期に対して為替差損が減少
- 固定資産の売却益を計上
- 税金費用は、米国の税制改正に伴い繰延税金資産を取り崩した前期に対し減少

➢ 2018年度決算のポイントについてご説明します。

➢ 売上収益は、戦略商品の販売は拡大しましたが、為替のマイナス影響に加え、一部新興国での通貨下落や経済停滞、および貿易摩擦などの影響を受け、成長に向けた取り組みは十分な成果につながりませんでした。

➢ 事業利益は、プロダクトミックス改善により売上総利益が増加した一方で、将来成長に向けた費用投下により販管費が増加しました。また、プリントヘッド部品に係る在庫評価減の計上方法変更による一過性のプラス影響があったほか、為替はマイナス影響を受けました。

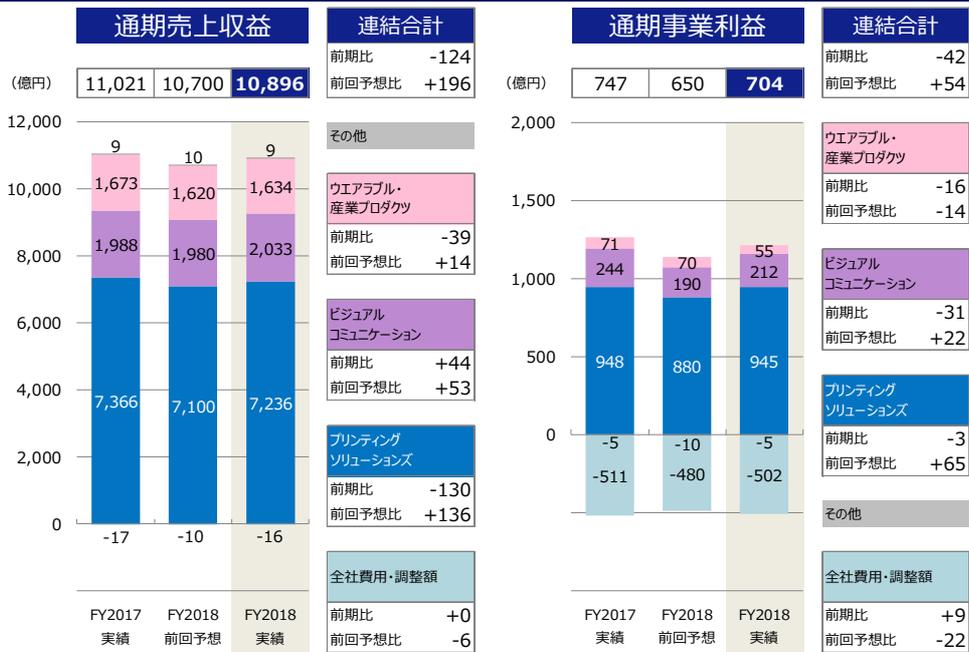
➢ 事業利益は減益となりましたが、営業利益、当期利益は増益となりました。

➢ その他営業収益費用では、2018年度は、為替差損が減少しました。

➢ また、遊休固定資産の売却益を計上しています。

➢ 税金費用は、米国の税制改正に伴い、繰延税金資産を取り崩した2017年度に対し減少しました。

2018年度 通期実績 | 事業セグメント別



- こちらは、売上収益、事業利益のセグメント別内訳です。
- 以降のスライドで、セグメント別に実績をご説明します。

(億円)

プリンティングソリューションズ	2017年度 実績	2018年度 前回予想	2018年度 実績	前期比	前回予想比
売上収益	7,366	7,100	7,236	-130	+136
プリンター	5,231	4,960	5,059	-172	+99
構成比 IJP	83%	83%	84%		
SIDM	8%	8%	8%		
その他	9%	9%	8%		
プロフェッショナルプリンティング	1,978	1,950	1,980	+2	+30
その他	173	190	197	+24	+7
事業間売上収益	-16	0	-1	+14	-1
セグメント利益	948	880	945	-3	+65
セグメント利益率	12.9%	12.4%	13.1%		

セグメント利益のうち、プリンター事業が占める割合 (2018年度実績)	5割半ば程度
--	--------

6

- はじめに、プリンティングソリューションズの事業別業績です。
- 当セグメントの売上収益は 130億円の減収、セグメント利益は前期並みとなりました。
- プリンター事業では、
インクジェットプリンターで、インクカートリッジモデルから大容量インクタンクモデルへの
転換を進めました。
インクカートリッジモデル本体は、価格維持施策を継続し、前期比 190万台減少の
640万台となりましたが、大容量インクタンクモデル本体が、南米や中国での環境変化の
影響を受けながらも、前期比 120万台増加の 900万台の販売となりました。
また、インク売上は、インクカートリッジモデル本体の稼働台数の減少により減少しました。
以上に加え、為替のマイナス影響により、プリンター事業全体で減収となりました。
- プロフェッショナルプリンティングは、大判プリンターで、フォト向けが減少した一方で、
戦略分野である、サイネージ、テキスタイル、ラベル向けが伸長し、為替のマイナス影響を
受けながらも前期並みの売上収益となりました。
- セグメント利益は、インクカートリッジモデルから大容量インクタンクモデルへの
ビジネスモデル転換が進んだことによる増加や、ヘッド部品に係る一過性のプラス要因が
あった一方で、将来成長に向けた費用の増加や、為替のマイナス影響により
前期並みとなりました。

(億円)

ビジュアルコミュニケーション	2017年度 実績	2018年度 前回予想	2018年度 実績	前期比	前回予想比
売上収益	1,988	1,980	2,033	+44	+53
セグメント利益	244	190	212	-31	+22
セグメント利益率	12.3%	9.6%	10.4%		

(億円)

ウェアラブル・産業プロダクツ	2017年度 実績	2018年度 前回予想	2018年度 実績	前期比	前回予想比
売上収益	1,673	1,620	1,634	-39	+14
ウェアラブル機器	503	490	498	-4	+8
ロボティクスソリューションズ	246	230	226	-19	-3
マイクロデバイス他	989	960	966	-23	+6
事業間売上収益	-66	-60	-58	+8	+1
セグメント利益	71	70	55	-16	-14
セグメント利益率	4.3%	4.3%	3.4%		

7

- ビジュアルコミュニケーションの売上収益は、
プロジェクターが、低調な市場環境の中、高光束モデルのミックス改善や、
超短焦点モデルの販売を増加させながら、前期並みとなる 260万台の販売を達成し、
増収となりました。
- セグメント利益は、将来成長に向けた費用の投入を進めていることで減益となりました。
- ウェアラブル・産業プロダクツは、
ロボティクスソリューションズとマイクロデバイス他が中国の需要低迷の影響などを受け、
減収減益となりました。

2019年度 通期業績予想 | ハイライト

EPSON
EXCEED YOUR VISION

	2018年度		2019年度		増減額 前期比	
	(億円)	実績	%	予想		%
売上収益		10,896		11,300	+403 +3.7%	
事業利益		704	6.5%	650	5.8%	-54 -7.8%
営業利益		713	6.5%	600	5.3%	-113 -15.9%
税引前利益		720	6.6%	590	5.2%	-130 -18.1%
親会社の所有者に帰属する 当期利益		537	4.9%	450	4.0%	-87 -16.2%
EPS*1 (円)		152.49		127.75		
為替レート (円、指数)	USD	¥110.86		¥110.00		
	EUR	¥128.40		¥125.00		
	その他通貨*2	100		98		
*1 EPS：基本的1株当たり当期利益			為替感応度*3			
*2 その他通貨の為替レートを為替ボリュームに応じて 加重平均した値について、前期を100とした指数			USD	EUR	その他通貨合計	
*3 USD/EURは1円の円高による年間影響額 (億円)			売上収益	△30	△15	△30
その他通貨は1%の円高による年間影響額 (億円)			事業利益	+7	△10	△13

8

- 続いて、2019年度の通期業績予想をご説明します。
- 売上収益は、前期比 403億円 増収の 1兆1300億円
- 事業利益は、54億円 減益の 650億円
- 当期利益は、87億円 減益の 450億円を見込みます。
- 為替前提は、USDドルは110円、ユーロは125円としました。
また、その他通貨は、2018年度を指数100とした場合、2019年度を98としました。
その結果、2019年度通期の為替変動による影響額は、
売上収益で 約120億円 のマイナス
事業利益で 約50億円 のマイナス を見込みます。

◆売上収益

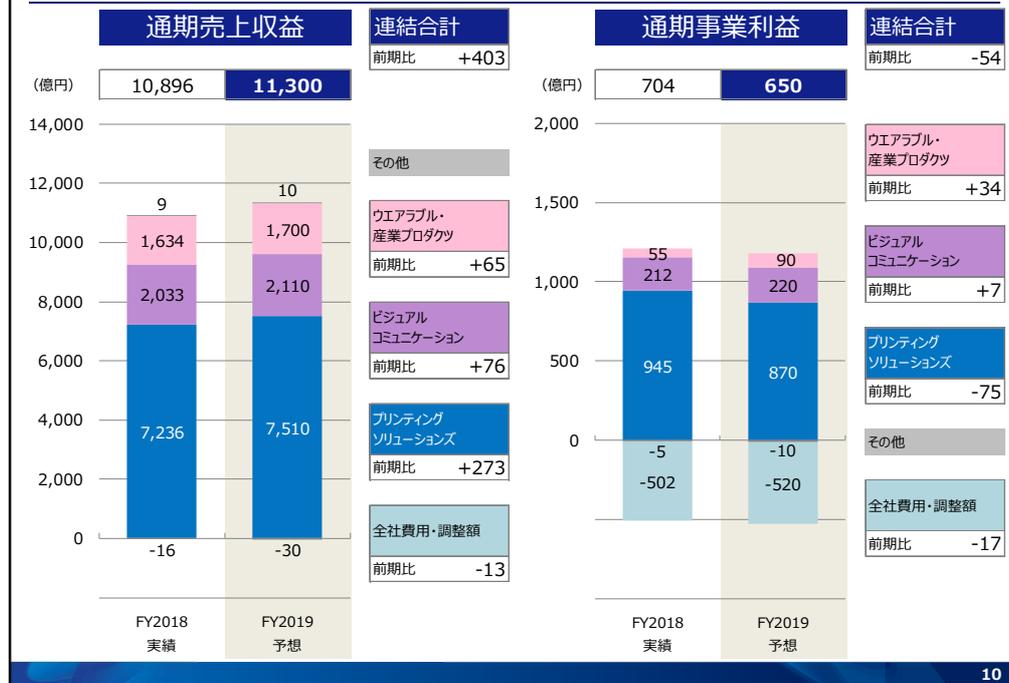
- 厳しい外部環境の継続を前提としながらも戦略商品の伸長により増収

◆事業利益

- 増収影響の一方で、2018年度にあった一過性のプラス要因が無くなることや為替のマイナス影響などにより減益
- 中長期的な視点で費用投入を継続する一方で、外部環境、戦略の実効性を踏まえた規律ある経営資源の投入により、一過性要因や為替影響を除き増益
 - プリンティングソリューションズは、LPからIJPへの置き換えを目指し、中長期視点で戦略的に費用投入を継続する
 - ビジュアルコミュニケーション、ウェアラブル・産業プロダクツは厳しい前提を置きながらも増益

- 2019年度予想のポイントについてご説明します。
- エプソンを取り巻く外部環境は、年間を通して厳しい状況が継続することを前提としますが、売上収益は、戦略商品の伸長により、増収を見込んでいます。
- 事業利益は、増収影響の一方で、2018年度にあった一過性要因が無くなることや、為替のマイナス影響などにより、減益を見込むものの、外部環境の変化や戦略の実効性を踏まえた、規律ある経営資源の投入を実施することにより、一過性の要因や為替影響を除けば、増益となる計画。
- プリンティングソリューションズでは、レーザーからインクジェットプリンターへの置き換えを目指し、中長期的な視点で大容量インクタンクモデルを中心に費用投入を継続します。
- 競合の攻勢が強化されることも想定されますが、大容量インクタンクモデルが持つ、低プリントコスト、環境性能などの優れた特性の認知がさらに進み、プリント需要をレーザーからインクジェットに置き換えるチャンスだとも考えています。
- プリンター市場において、協業なども行いながら、市場拡大ならびにエプソンの成長を加速させていきます。
- また、ビジュアルコミュニケーション、ウェアラブル・産業プロダクツは、厳しい環境を認識したうえでのリスク対応を織り込みながらも、増益を見込んでいます。

2019年度 通期業績予想 | 事業セグメント別



- こちらは、売上収益、事業利益のセグメント別内訳です。
- 以降のスライドで、セグメント別に予想をご説明します。
- なお、全社費用・調整額は、特許料収入の減少などを予想しています。

(億円)

プリンティングソリューションズ	2018年度 実績	2019年度 予想	前期比
売上収益	7,236	7,510	+273
プリンター	5,059	5,130	+70
構成比 IJP	84%	84%	
SIDM	8%	7%	
その他	8%	9%	
プロフェッショナルプリンティング	1,980	2,170	+189
その他	197	210	+12
事業間売上収益	-1	0	+1
セグメント利益	945	870	-75
セグメント利益率	13.1%	11.6%	
セグメント利益のうち、プリンター事業が占める割合 (2019年度予想)		4割半ば程度	

11

- プリンティングソリューションズの業績予想はご覧の通りです。
- 売上収益は、273億円の増収を見込みます。
- プリンター事業は、インクジェットプリンターによるレーザープリンターからの置き換えを目指した取り組みを本格化させます。
ホーム・SOHOのインクカートリッジモデルの本体やインクは減少しますが、大容量インクタンクモデルは、プリンター市場におけるプレゼンス拡大施策の継続により、先進国、エマージング地域ともに伸長させ、前期比 120万台増加の 1,020万台の販売を計画し、インクジェットプリンター全体でミックス改善を行いながら、増収を見込みます。
- また、オフィス共有では、高速ラインインクジェット複合機を核にした総合提案により、着実な増収を見込みます。
- プロフェッショナルプリンティングは、商業・産業向けインクジェットプリンターで、サイネージやテキスタイルなどの強化分野での成長により増収を見込みます。
- セグメント利益は、為替のマイナス影響に加え、2018年度末に計上したヘッド部品に係る一過性の利益が無くなることなどにより、減益を見込みます。

(億円)

ビジュアルコミュニケーション	2018年度 実績	2019年度 予想	前期比
売上収益	2,033	2,110	+76
セグメント利益	212	220	+7
セグメント利益率	10.4%	10.4%	

(億円)

ウェアラブル・産業プロダクツ	2018年度 実績	2019年度 予想	前期比
売上収益	1,634	1,700	+65
ウェアラブル機器	498	500	+1
ロボティクスソリューションズ	226	260	+33
マイクロデバイス他	966	990	+23
事業間売上収益	-58	-50	+8
セグメント利益	55	90	+34
セグメント利益率	3.4%	5.3%	

12

- ビジュアルコミュニケーションは、
高光束プロジェクターの拡大により、増収を見込みます。
セグメント利益は、為替のマイナス影響に加え、ラインアップ整備費用や、
新規分野開拓に向けた拡販費用増加を見込むものの、増収により増益を見込みます。
- ウェアラブル・産業プロダクツは、
売上収益は、ロボティクスソリューションズで、中国向けの需要は軟調な推移を前提と
するものの、欧米での自動車部品、電子部品、医療機器向けなどが伸長することで
増収を見込み、
マイクロデバイス他は、半導体は前期並みを見込みますが、水晶やその他事業での
増収を見込みます。
- セグメント利益は、増収に加え、費用の適切なコントロールの実施や、
水晶やその他事業でのプロダクトミックス改善も進むことで、増益を見込みます。

◆ 自己株式の取得

- 基本方針である、積極的な利益還元を目指し、自己株式取得を実施

取得対象株式の種類	当社普通株式
取得し得る株式の総数	7,500,000株（上限）
株式の取得価額の総額	100億円（上限）
取得期間	2019年5月7日～2019年9月20日
取得方法	東京証券取引所における市場買付け （証券会社による取引一任方式）

◆ 配当実績・予想



*1：当社は2015年4月1日に1:2の株式分割を実施しました。グラフの高さは分割後の水準で表示しています

- 株主のみなさまへの利益還元についてご説明します。
- 目指している中長期的な業績や財務目標に照らした現状の株価水準、資本効率の向上、積極的な株主還元などを勧告し、本日、100億円を上限とした自己株式取得を行うことを発表しました。
- 具体的なスキームは、スライドの通りです。
- また、2018年度の期末配当は、前回予想のとおり 1株当たり 31円とし、年間で62円とさせていただく予定です。
- 2019年度の配当は、2018年度と同額の 1株当たり年間 62円の予想です。
- ここ数年、将来成長に向けて戦略的に費用投入を先行させており、また、環境変化への対応が遅れたことで、戦略の成果が業績に反映されない状況が継続しています。
- プリンティング市場で、レーザーからインクジェットへの置き換えを進めているエプソンにとって、今が、将来成長を実現する正念場だと考えています。
- エプソンのビジョンが目指す先には、今よりはるかに大きな成長があると確信していますので、オフィスにおけるインクジェットプリンターの認知をさらに高め、着実にレーザーからの置き換えを進めて行くとともに、商業・産業印刷の分野でも、エプソンのプリンターの成長に加え、プリントヘッドの外販なども行うことで、市場でのプレゼンスを今より一層向上させて行きます。
- 2019年度の業績目標達成はもちろん、第2期中計での目標達成に向け、経営陣が先頭に立って、スピード感を持った取り組みを行い、高い収益を生み出す事業運営への改革を進めてまいります。

- 2018年度 通期決算
- 2019年度 通期業績予想
- 株主還元

- 2018年度 第4四半期決算詳細
- 主要経営指標

2018年度 第4四半期決算 | ハイライト



	2017年度		2018年度		前年同期比				
	(億円)	4Q実績	%	4Q実績	%	増減額	増減率		
売上収益		2,686		2,606		-79	-3.0%		
事業利益		163	6.1%	121	4.6%	-42	-25.8%		
営業利益		127	4.8%	131	5.1%	+4	+3.3%		
税引前利益		116	4.3%	131	5.1%	+15	+13.2%		
親会社の所有者に帰属する 四半期利益		72	2.7%	77	3.0%	+5	+7.2%		
EPS ^{*1} (円)		20.65		22.13					
為替レート (円、指数)	USD	¥108.39		¥110.14					
	EUR	¥133.20		¥125.13					
	その他通貨 ^{*2}	100		94					
<small>*1 EPS: 基本的1株当たり当期利益 *2 その他通貨の各レートを為替ボリュームに応じて加重平均した値について、前年同期を100とした指数</small>				前年同期に対する 為替影響額 (億円)		USD	EUR	その他 通貨合計	合計
				売上収益		+12	-28	-39	-55
				事業利益		-2	-18	-20	-41

15

- 2018年度 第4四半期実績についてご説明します。
- 売上収益は、前年同期比 79億円 減収の 2,606億円、
事業利益は、42億円 減益の 121億円、
四半期利益は、5億円 増益の 77億円 です。
- 当四半期の為替変動による影響額は、
売上収益で 55億円 のマイナス、
事業利益で 41億円 のマイナスとなりました。

◆売上収益

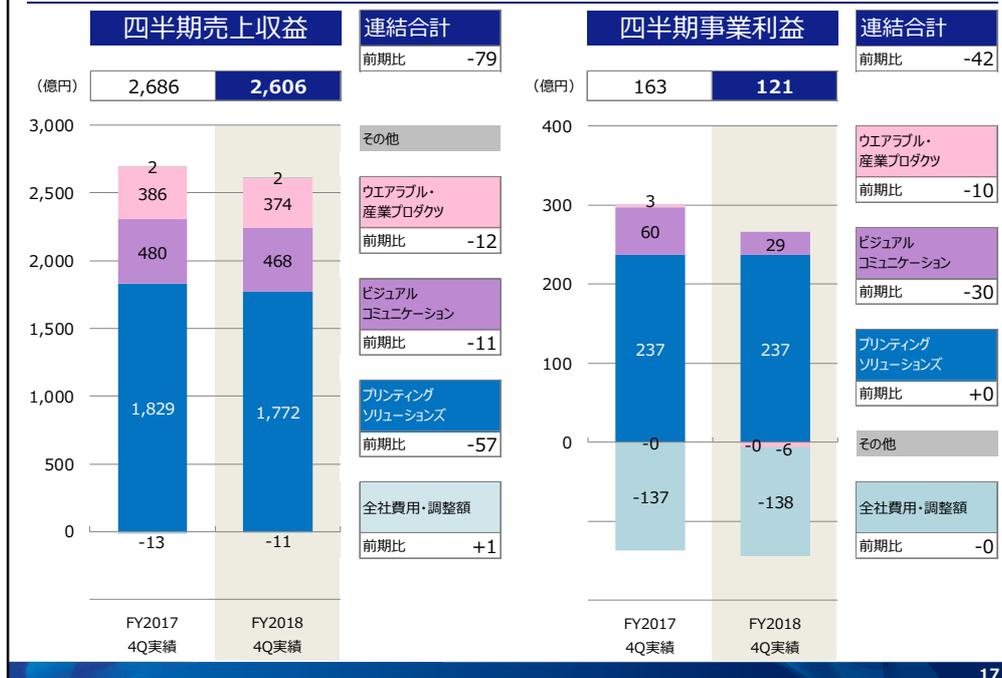
- 為替のマイナス影響に加え、中国や中南米などでの経済活動の停滞、一部地域での政情不安の影響を受け減収
 - 中国向けは、ロボット、マイクロデバイスなどで減少が継続
 - 貿易摩擦の影響は、広範な地域・商品に拡大
- 大容量インクタンクモデルの成長ペースは回復
 - 中南米では、競合の影響や経済活動の停滞・政情不安などの影響により前年同期を下回ったものの、中国・インドをはじめとしたアジアや先進国で順調に拡大し、全体では増加のペースは回復

◆事業利益

- プリンティングソリューションズにおけるプリントヘッド部品に係る在庫評価減の計上方法変更に伴う一過性の増益影響の一方で、減収影響や為替のマイナス影響を受け減益

- 2018年度第4四半期決算のポイントについてご説明します。
- 売上収益は、為替のマイナス影響に加え、中国や中南米などでの経済活動の停滞や、一部地域での政情不安の影響を受けたことで、減収となりました。
- 中国向けは、ロボット、マイクロデバイスなどで減少が継続し、また、貿易摩擦の影響は、広範な地域・商品に拡大しました。
- 大容量インクタンクモデルは、中南米では、競合の動向を踏まえた価格対応などを実施したものの、経済活動の停滞や政情不安などの影響により、前年同期を下回り、目標には届きませんでした。
しかしながら、第3四半期後半に流通在庫の適正化が進んだ中国や、インドをはじめとしたアジア、および、先進国でも順調に拡大し、グローバルでの増加ペースは上期の水準に回復しました。
- 事業利益は、プリンティングソリューションズにおけるプリントヘッド部品に係る在庫評価減の計上方法変更に伴う増益影響の一方で、減収影響や為替のマイナス影響を受けることとなりました。
- 前回予想に対する変化をご説明します。
第3四半期に入り、エプソンを取り巻く環境は急変し、また、今後の変化も不透明であったことから、前回予想は、社内計画をベースに、環境変化に対応したリスクを織り込んだ予想としました。
- この前回予想に対しては、為替は円安に推移し、プラスの影響があったことに加え、費用の削減などに取り組んだ結果、売上収益、事業利益ともに予想を上回りました。

2018年度 第4四半期実績 | 事業セグメント別



- こちらは、当第4四半期におけるセグメント別の売上収益、事業利益の前年同期比較です。
- 以降のスライドで、セグメントごとの詳細をご説明します。

(億円)

プリンティングソリューションズ	2017年度 4Q実績	2018年度 4Q実績	前年 同期比	
売上収益	1,829	1,772	-57	◆ IJP: ・大容量インクタンクモデルは市場停滞の影響を受けながらも増加 ・インクカートリッジモデルは価格維持施策により販売減少 ・インクは減少 ◆ SIDM: ・需要減少の継続 ◆ 大判プリンター: ・サイネージは増加が継続 ・フォト向けは競合影響により減少 ◆ POSプリンター: ・前年同期並み
プリンター	1,285	1,220	-65	
構成比 IJP	83%	83%		
SIDM	7%	7%		
その他	10%	10%		
プロフェッショナルプリンティング	496	485	-11	
その他	51	66	+15	
事業間売上収益	-4	-0	+4	
セグメント利益	237	237	+0	
セグメント利益率	13.0%	13.4%		

セグメント利益のうち、プリンター事業が占める割合 (2018年度4Q実績)	約6割
--	-----

18

- プリンティングソリューションズの前年同期との比較は、ご覧の通りです。
- 当セグメントは、売上収益、事業利益とも為替のマイナス影響がありました。
- プリンター事業の売上収益は、減収となりました。
 インクジェットプリンターでは、大容量インクタンクモデルは、先ほどご説明した通り、第4四半期に入って増加ペースが回復したことで、前年同期から大きく増加しました。インクカートリッジモデル本体は、価格維持施策により、販売数量減少となりました。また、インク売上は、本体稼働台数減少により減少しました。
 SIDMは、中国向けは前年同期がチャネル在庫の調整により低水準であったことから増加したものの、その他地域での減少が継続していることで、販売は減少しました。
- プロフェッショナルプリンティングの売上収益は、減収となりました。
 サイネージ向けの増加の一方で、フォト向けが競合影響により減少しました。
- セグメント利益は、減収の一方で、ヘッド部品の一過性の増益影響もあり、前年同期並みとなりました。
- なお、セグメント利益のうち、プリンター事業が占める割合は、6割程度です。
- 前回予想に対しては、
 プリンター事業の売上収益は、大容量インクタンクモデルやSIDMが数量未達となったほか、インクカートリッジモデル本体も価格維持施策を堅持したことで、数量未達となりましたが、インクは予想に対しては堅調に推移したことに加え、環境変化に対応したリスクを予想に織り込んでいたことで、予想を上回りました。
- プロフェッショナルプリンティングの売上収益は、小型プリンターが堅調に推移し、予想を上回りました。
- セグメント利益は、売上収益が予想を上回ったことに加え、費用の削減を進めたことで予想を上回りました。

(億円)

ビジュアルコミュニケーション	2017年度 4Q実績	2018年度 4Q実績	前年 同期比	◆ プロジェクター： ・ 販売数量減少 ・ 超短焦点モデルの販売増 によるモデルミックス変動
売上収益	480	468	-11	
セグメント利益	60	29	-30	
セグメント利益率	12.6%	6.4%		

(億円)

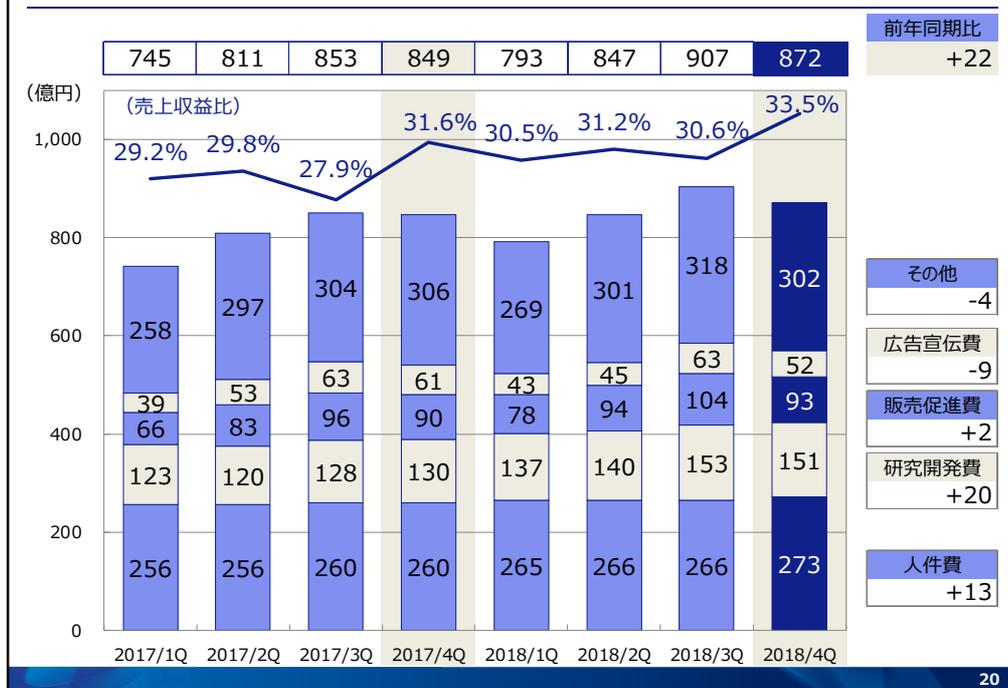
ウェアラブル・産業プロダクツ	2017年度 4Q実績	2018年度 4Q実績	前年 同期比	◆ ウォッチ： ・ 国内・海外向けともに 高付加価値モデルを中心に 増加 ◆ ロボット： ・ 中国向けの需要減退が継続 ◆ 水晶： ・ 民生機器向けを中心に減少 ◆ 半導体： ・ 顧客需要が減退し減少
売上収益	386	374	-12	
ウェアラブル機器	104	112	+7	
ロボティクスソリューションズ	58	51	-7	
マイクロデバイス他	240	225	-14	
事業間売上収益	-16	-15	+1	
セグメント利益	3	-6	-10	
セグメント利益率	1.0%	-1.8%		

19

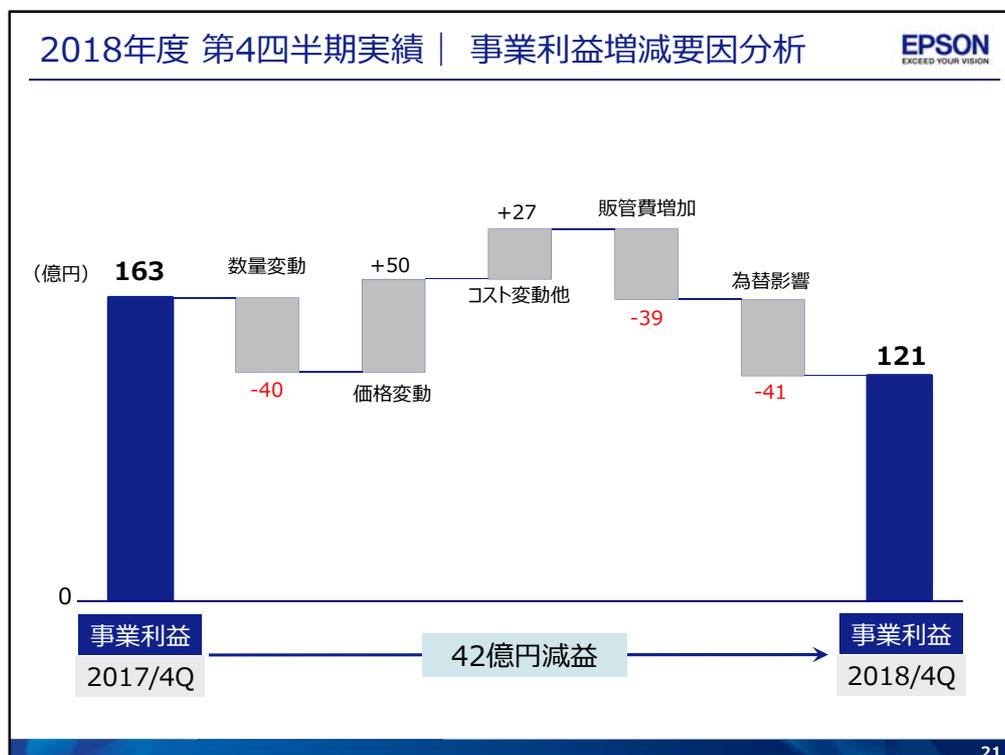
- ビジュアルコミュニケーションの売上収益は、為替のマイナス影響もあり、減収となりました。
- プロジェクターは、欧州などで教育向け超短焦点モデルの増加などがありましたが、低調な市場環境の影響を受け、プロジェクター全体での販売数量は減少しました。
- セグメント利益は、為替のマイナス影響に加え、ラインナップ強化に向けた費用の増加などにより、減益となりました。
- 前回予想に対しては、売上収益・セグメント利益ともに、為替のプラス影響に加え、環境変化に対応したリスクを予想に織り込んでいたことから、予想を上回りました。

- ウェアラブル・産業プロダクツの売上収益は、減収となりました。
- ウェアラブル機器は、ムーブメントは市況悪化の影響を受け減少したものの、ウォッチが国内・海外向けともに高付加価値品を中心に増加し、増収となりました。
- ロボティクスソリューションズは、中国で投資需要減の影響が継続し、減収となりました。
- マイクロデバイス他は、水晶で、中国の景気減速の影響を受け、民生機器向けを中心に減少したほか、半導体も顧客需要が減退し、減収となりました。
- セグメント利益は、ウェアラブル機器での増収や費用削減があったものの、マイクロデバイス他の減収や、ロボティクスソリューションズでは体制強化に伴う費用増もあり、減益となりました。
- 前回予想に対しては、売上収益は、ウェアラブル機器が堅調であったことに加え、為替のプラス影響により、予想を上回りました。
セグメント利益は、マイクロデバイス他でのモデルミックス変動などにより、予想を下回りました。

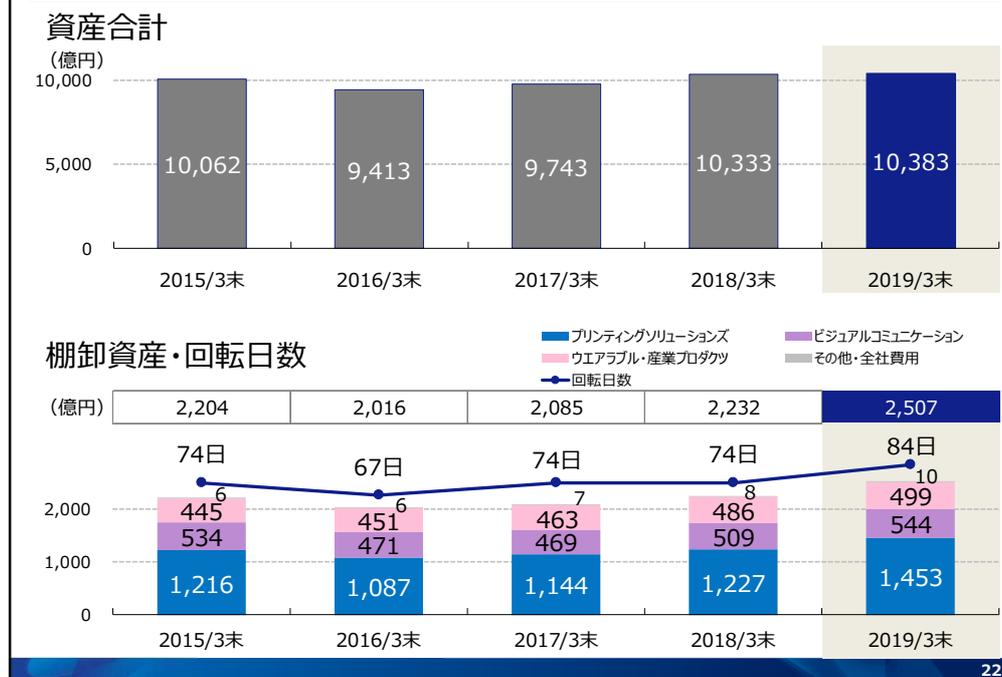
販売費および一般管理費 主要科目別推移



- 販売費及び一般管理費の四半期推移は、ご覧のとおりです。
- 第4四半期は、前年同期から 22億円の増加となりました。
- これは、プリンティングソリューションズの研究開発費および、継続的に実施している販売体制の強化などによるものです。

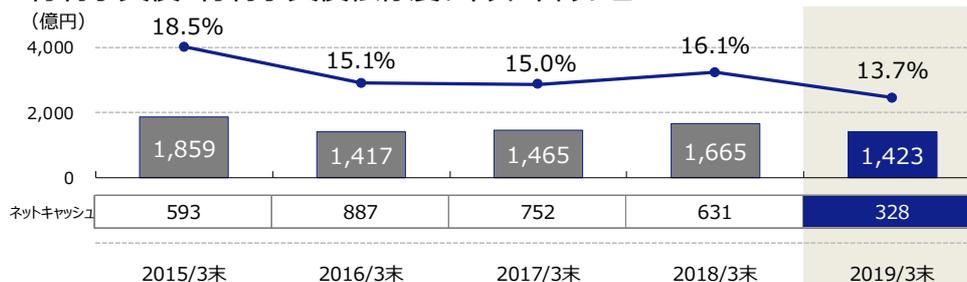


- 第4四半期事業利益増減の要因分析は、ご覧のとおりです。
- 数量変動は、大容量インクタンクモデル本体やインクボトル、サイネージやテキスタイル向け大判プリンターなどでプラスとなりましたが、インクカートリッジ、プロジェクター、フォト向け大判プリンター、半導体、水晶デバイスなどのマイナスが上回りました。
- 価格変動は、大容量インクタンクモデルなどでマイナスとなりましたが、プロジェクター、ウォッチ、半導体でのモデルミックス変動などによりプラスとなりました。
- コスト変動他は、高付加価値商品の増加に伴ったコストの増加はありますが、インクカートリッジモデル本体の生産減少に伴う費用の減少に加え、プリントヘッド部品に係る一過性のプラスが上回りました。

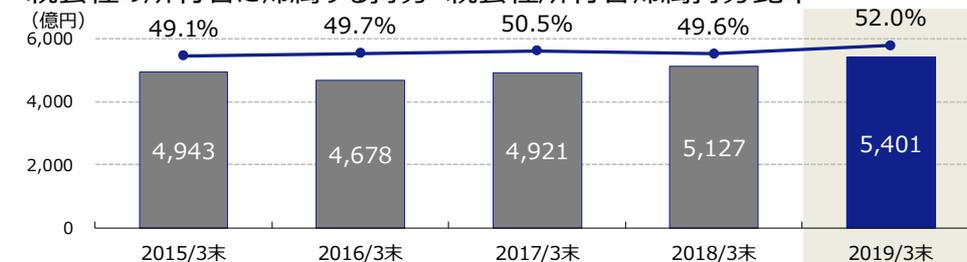


- 財政状態計算書の主要項目について、ご説明します。
- 資産合計は、現金および現金同等物が、有形固定資産などの取得や配当金の支払いなどにより減少した一方で、棚卸資産、有形固定資産などの増加により、前期末に対して 50億円増加し、1兆 383億円となりました。
- 棚卸資産は、インクジェットプリンター本体やプロジェクターの在庫増加などにより、前期末に対して275億円増加し、2, 507億円となりました。

有利子負債・有利子負債依存度、ネットキャッシュ



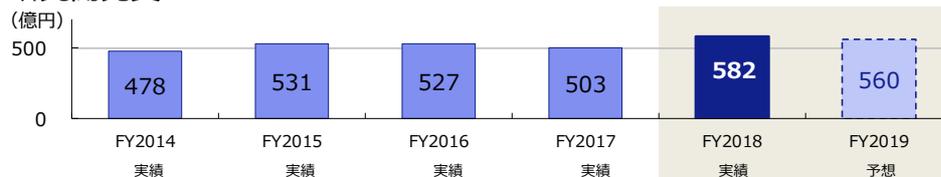
親会社の所有者に帰属する持分・親会社所有者帰属持分比率



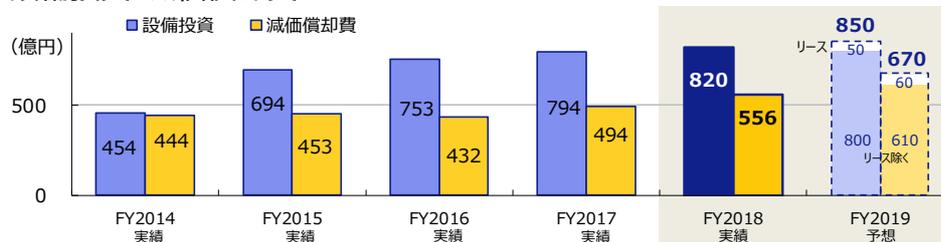
- 有利子負債は、
前期末に対して 242億円減少の、1,423億円となり、
資産合計の有利子負債依存度は 13.7%となりました。
- ネットキャッシュは、328億円となりました。
- 親会社の所有者に帰属する持分は、
前期末に対して274億円増加の 5,401億円となり、
親会社所有者帰属持分比率は、52.0%となりました。

主要費用・設備投資

研究開発費



設備投資・減価償却費



	設備投資	減価償却費	設備投資	減価償却費
プリンティングソリューションズ	468	306	430	390
ビジュアルコミュニケーション	114	98	160	120
ウェアラブル・産業プロダクト	139	91	160	100
その他・全社費用	98	59	100	60

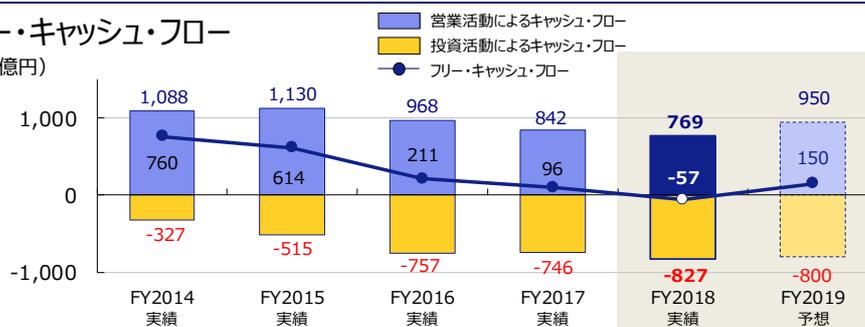
FY2019予想にはリースを含む

- 研究開発費、および設備投資、減価償却費の実績ならびに予想はご覧のとおりです。
- 2019年の設備投資は、引き続き高い水準が継続しますが、2020年度以降は減少を見込んでいます。
- なお、2019年度は、リース会計基準の改定が実施されるため、新基準での予想です。
- 参考として、従来と同様の基準で試算した場合の予想を掲載しています。

フリー・キャッシュ・フロー/主な経営指標

フリー・キャッシュ・フロー

(億円)



主な経営指標

(%)

	FY2014 実績	FY2015 実績	FY2016 実績	FY2017 実績	FY2018 実績	FY2019 予想
ROS 売上収益 事業利益率	9.3	7.8	6.4	6.8	6.5	5.8
ROA 資産合計 事業利益率	10.6	8.7	6.9	7.4	6.8	6.1
ROE 親会社所有者帰属持分 当期利益率	26.3	9.5	10.1	8.3	10.2	8.2

25

- フリー・キャッシュ・フローおよび主な経営指標についてご説明します。
- 2018年度のキャッシュ・フローは、
営業活動によるキャッシュ・フローは、 769億円、
投資活動によるキャッシュ・フローは、 827億円、
その結果、フリー・キャッシュ・フローは、 マイナス57億円となりました。
- また、主な経営指標は、
ROSが 6.5%、
ROAが 6.8%、
ROEが 10.2% となりました。
- 2018年度のフリー・キャッシュ・フローがマイナスとなりましたが、これは、
2018年度の資金効果に影響がある、第4四半期前半の販売未達が大きかったことから
営業キャッシュ・フローが減少したことに加え、
支払時期の差異発生などにより、投資キャッシュ・フローが増加したことによります。
- 2019年度のキャッシュ・フローは、
営業活動によるキャッシュ・フローは、 950億円、
投資活動によるキャッシュ・フローは、 800億円、
その結果、フリー・キャッシュ・フローは、 150億円を予想します。
- また、主な経営指標は、
ROSが 5.8%、
ROAが 6.1%、
ROEが 8.2% となります。
- 以上

補足資料

四半期 売上収益推移 | 事業セグメント別

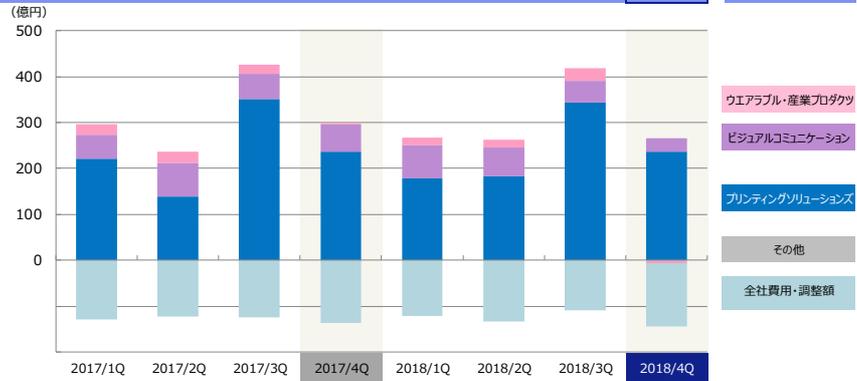
為替レート (円)	USD	111.08	111.00	112.92	108.39	109.06	111.46	112.80	110.14	+1.75
	EUR	122.12	130.36	132.96	133.20	130.09	129.66	128.73	125.13	
売上収益 (億円)		2017/1Q	2017/2Q	2017/3Q	2017/4Q	2018/1Q	2018/2Q	2018/3Q	2018/4Q	前年同期比
プリンティングソリューションズ		1,659	1,761	2,116	1,829	1,666	1,780	2,017	1,772	-57
ビジュアルコミュニケーション		463	528	516	480	514	539	510	468	-11
ウェアラブル・産業プロダクト		430	432	423	386	431	409	419	374	-12
その他		2	2	2	2	2	2	2	2	+0
全社費用・調整額		-8	0	2	-13	-9	-13	17	-11	+1
連結合計		2,548	2,725	3,061	2,686	2,604	2,719	2,966	2,606	-79



四半期 事業利益推移 | 事業セグメント別



為替レート (円)	USD	111.08	111.00	112.92	108.39	109.06	111.46	112.80	110.14	+1.75
	EUR	122.12	130.36	132.96	133.20	130.09	129.66	128.73	125.13	
事業利益 (億円)	2017/1Q	2017/2Q	2017/3Q	2017/4Q	2018/1Q	2018/2Q	2018/3Q	2018/4Q	前年同期比	
プリンティングソリューションズ	221	138	351	237	179	183	344	237	+0	
ビジュアルコミュニケーション	52	74	56	60	71	63	47	29	-30	
ウェアラブル・産業プロダクト	23	24	19	3	17	16	27	-6	-10	
その他	-1	-1	-1	-0	-1	-0	-1	-0	-0	
全社費用・調整額	-128	-122	-123	-137	-120	-134	-108	-138	-0	
連結合計	167	113	303	163	146	127	309	121	-42	



主要製品の販売動向 (FY18実績)

■ 実績および予想 (前年同期比)

ASP,売上収益は日本円換算後

製品		FY2017 通期(実績)	FY2018 1Q(実績)	FY2018 2Q(実績)	FY2018 3Q(実績)	FY2018 4Q(実績)	FY2018 通期(実績)
為替レート (円)	USD	110.85	109.06	111.46	112.80	110.14	110.86
	EUR	129.66	130.09	129.66	128.73	125.13	128.40
IJP 本体	数量	+8%	+5%	-3%	-13%	-2%	-4%
	数量構成比 大容量*/ オフィス	50%弱/ 15%超	-	-	-	-	約60%/ 約15%
	ASP	+10%台前半	+1桁%台半ば	+1桁%台後半	+1桁%台後半	前期並み	+1桁%台半ば
	売上収益	+20%台前半	+1桁%台後半	+1桁%台半ば	-1桁%台後半	-1桁%台前半	前期並み
IJP インク	数量	-4%	-7%	-3%	-5%	-6%	-5%
	ASP	+1桁%台半ば	前年同期並み	-1桁%台半ば	-1桁%台前半	-1桁%台前半	-1桁%台前半
	売上収益	+1桁%台前半	-1桁%台後半	-1桁%台後半	-1桁%台後半	-1桁%台後半	-1桁%台後半
SIDM 本体	数量	-7%	+5%	+5%	-21%	-10%	-6%
	ASP	+1桁%台前半	前年同期並み	-1桁%台前半	-1桁%台前半	-1桁%台前半	-1桁%台前半
	売上収益	-1桁%台半ば	+1桁%台半ば	+1桁%台前半	-20%台前半	-10%台前半	-1桁%台後半
プロジェク ター	数量	+1%	+10%	+1%	-3%	-5%	+1%
	ASP	+1桁%台後半	前年同期並み	+1桁%台前半	+1桁%台前半	+1桁%台前半	+1桁%台前半
	売上収益	+10%台前半	+10%台前半	+1桁%台前半	-1桁%台前半	-1桁%台前半	+1桁%台前半

本資料は、エプソン内部の管理値に基づく指標です。 *大容量インクプリンター：大容量インクタンク、大容量インクパック、高速ラインインクジェット複合機

主要製品の販売動向（FY18実績、FY19予想）

■ 実績および予想（前年同期比）

				FY2018 通期(実績)	FY2019 通期(予想)
			USD	110.86	110.00
			EUR	128.40	125.00
プリンティング ソリューションズ	IJP本体	売上収益（円貨）	伸長率	前期並み	+11%
		本体数量	伸長率	-4%	+5%
		本体数量	台数	約1,540万台	約1,620万台
		内 大容量インクタンク	台数	約900万台	約1,020万台
		内 ホーム・SOHO	台数	約610万台	約560万台
	IJPインク	IJP内売上 （メディア売上除く）	構成比	約50%	46%
		売上収益（円貨）	伸長率	-1桁%台後半	-6%
	オフィス共有* （本体+インク）	IJP内売上	構成比	1桁%台後半	10%
		売上収益（円貨）	伸長率	-1桁%台後半	-8%
	SIDM	本体数量	伸長率	-6%	-5%
		商業・産業IJP	プロフェッショナルプリンティング 事業内売上	構成比	60%台前半
ビジュアル コミュニケーション	プロジェクター 本体	売上収益（円貨）	伸長率	+1桁%台前半	+4%
		本体数量	伸長率	+1%	+4%
		本体数量	台数	約260万台	約270万台

本資料は、エプソン内部の管理値に基づく指標です。
* オフィス共有：高プリントボリュームオフィス向けプリンター。I/CEモデル、RIPS、LIJを含む。

海外売上収益・従業員数

海外売上収益

為替レート (円)	USD	111.08	111.00	112.92	108.39	109.06	111.46	112.80	110.14	+1.75
	EUR	122.12	130.36	132.96	133.20	130.09	129.66	128.73	125.13	-8.07

売上収益 (億円)	2017/1Q	2017/2Q	2017/3Q	2017/4Q	2018/1Q	2018/2Q	2018/3Q	2018/4Q	前年同期比
米州	783	815	819	785	755	821	770	757	-28
欧州	502	521	682	626	528	520	636	566	-59
アジア・オセアニア	727	803	784	667	792	794	761	675	+8
海外売上収益計	2,012	2,140	2,286	2,079	2,076	2,137	2,168	1,999	-79
連結合計	2,548	2,725	3,061	2,686	2,604	2,719	2,966	2,606	-79

構成比	2017/1Q	2017/2Q	2017/3Q	2017/4Q	2018/1Q	2018/2Q	2018/3Q	2018/4Q
米州	30.7%	29.9%	26.8%	29.3%	29.0%	30.2%	26.0%	29.1%
欧州	19.7%	19.1%	22.3%	23.3%	20.3%	19.1%	21.5%	21.7%
アジア・オセアニア	28.5%	29.5%	25.6%	24.8%	30.4%	29.2%	25.7%	25.9%
海外売上収益計	79.0%	78.6%	74.7%	77.4%	79.7%	78.6%	73.1%	76.7%

従業員数

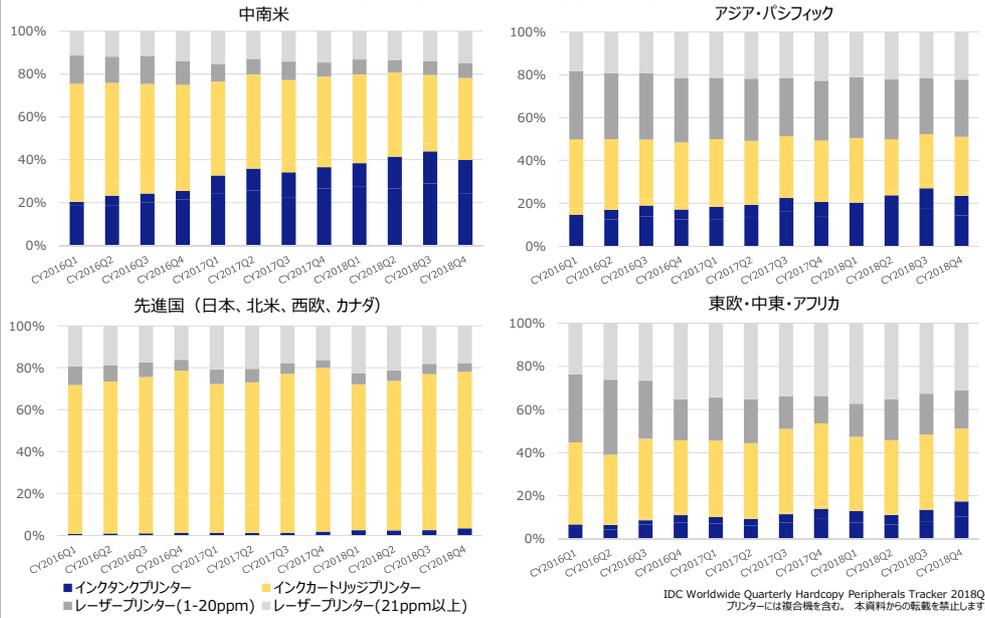
期末従業員数 (人)	2015/3末	2016/3末	2017/3末	2018/3末	2019/3末	前期末比
国内	18,627	18,699	19,175	19,436	19,456	+20
海外	51,251	48,906	53,245	56,955	57,191	+236
連結合計	69,878	67,605	72,420	76,391	76,647	+256

主な業績指標

(億円)					(億円)			
項目	項目	FY2018	FY2019	FY2021	項目	FY2018	FY2019	Epson 25
		実績	予想	第2期中計目標		実績	予想	第2期3年累計目標
為替レート (円)	USD	110.86	110.00	110.00	USD	110.86	110.00	110.00
	EUR	128.40	125.00	125.00	EUR	128.40	125.00	125.00
プリンティング	売上収益	7,236	7,510	7,800	営業CF	769	950	3,700程度
ソリューションズ	セグメント利益	945	870	-	FCF	-57	150	1,700程度
ビジュアル コミュニケーション	売上収益	2,033	2,110	2,250	研究開発費	582	560	積極的に投下
	セグメント利益	212	220	-				
ウェアラブル・ 産業プロダクト	売上収益	1,634	1,700	1,950	設備投資 リース除く	820	850	2,000程度
	セグメント利益	55	90	-				
その他	売上収益	9	10	-				
	セグメント利益	-5	-10	-				
全社・調整額	売上収益	-16	-30	-				
	セグメント利益	-502	-520	-				
連結合計	売上収益	10,896	11,300	12,000				
	事業利益	704	650	960				
	ROS	6.5%	5.8%	8%				
	ROE	10.2%	8.2%	継続的に 10%以上				

大容量インクタンクモデルの浸透（数量構成比）

A4サイズプリンタータイプ別市場推移



Color Control Technology	商業・産業印刷における色再現性を高めるカラーマネジメント技術
Epson Connect	エプソンの商品・サービスを対象としたモバイル・クラウドサービス
I/C	Ink Cartridge, インクカートリッジ
IJP	Inkjet Printer, インクジェットプリンター
LIJ	Line Inkjet Printer, 高速ラインインクジェット複合機
LP	Laser Printer, レーザープリンター（複合機含む）
RIPS	Replaceable Ink Pack System, 大容量インクパックモデル
SIDM	Serial Impact Dot Matrix Printers
SOHO	Small Office Home Office, 小規模オフィス・ホームオフィス
オフィス共有	商品カテゴリの1つ。高プリントボリュームオフィス向けプリンター。I/Cモデル, RIPS, LIJを含む。
フォト	フォト、グラフィックス、プルーフ、CAD印刷向け大判プリンターなどが含まれる
商業・産業IJP	商品カテゴリの1つ。商業・産業用途向け大判インクジェットプリンター。
大容量インクタンクモデル	エコタンク搭載インクジェットプリンター
大容量インクモデル	大容量インクカートリッジモデル、大容量インクタンクモデル、大容量インクパックモデル（RIPS）、高速ラインインクジェット（LIJ）の総称
分散印刷	同一内容の印刷物を複数のプリンターを用いて印刷する方法
3LCD	プロジェクター方式の1つ。液晶パネル3枚を使う方式。
FPD	Flat Panel Display, フラットパネルディスプレイ
OLED	Organic Light Emitting Diode（有機EL）
高光束プロジェクター	交換レンズ機能付き高輝度プロジェクター
WP	ウェアラブル機器事業
MD他	マイクロデバイス他事業

EPSON
EXCEED YOUR VISION